

令和3年3月10日

於

府中市役所

令和2年度第3回

府中市総合教育会議 会議録

府中市政策総務部政策課

令和2年度第3回府中市総合教育会議 会議録

1 開 会 令和3年3月10日(水)

午後3時

閉 会 午後4時22分

2 出席者

市 長 高 野 律 雄 (議長)

教育長 浅 沼 昭 夫

委 員 日 野 佳 昭

委 員 平 原 保

委 員 新 島 香

委 員 増 渕 達 夫

3 欠席委員

なし

4 出席説明員

文化スポーツ部長

関 根 滋

文化生涯学習課長

二 村 善 久

教育部長

赤 岩 直

教育部副参事(兼)指導室長

並 木 茂 男

教育総務課長

矢 夕 崎 幸 夫

教育総務課長補佐

矢 島 彩 子

学校施設課長

町 井 香

学校施設課長補佐

遠 藤 勝 久

指導室主幹

目 黒 昌 大

統括指導主事

吉 田 周 平

統括指導主事

菅 原 尚 志

5 事務局出席者

政策総務部長

石 橋 純 一

政策課長

大 井 孝 夫

政策課長補佐

吉 本 忠 幸

政策課主査

斎 藤 麻 美

6 議事内容

- (1) 協議題1 令和3年度府中市の教育に関する予算について
- (2) 協議題2 子どもたちの現状と取り巻く環境について

7 傍聴者の数

4名

8 発言内容

○市長 それでは、只今より、令和2年度第3回府中市総合教育会議を開催させていただきます。教育長並びに教育委員の皆様には、お忙しい中ご出席をいただき、心より感謝を申しあげます。また、日頃より、府中市の教育にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申しあげます。

本日は、協議題1「令和3年度府中市の教育に関する予算について」、協議題2「子どもたちの現状と取り巻く環境について」の2件について、ご協議をお願いいたします。緊急事態宣言下ではありますが、子どもたちのより良い学びのために、皆様に活発なご意見をいただき、教育に関して市長部局と教育委員会の連携を更に深め、本市の教育行政を一層推進していきたいと存じますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

◎傍聴許可

○市長 協議題に入ります前に、この会議は法律及び当会議の運営規程により公開が原則とされており、本日傍聴希望の方がお見えですので、傍聴を認めることにしてよろしいでしょうか。

○教育長、教育委員 異議なし

○市長 それでは、傍聴を認めます。

◎協議題1 令和3年度府中市の教育に関する予算について

○市長 それでは、会議次第に沿って議事を進めてまいります。本日の協議題は、次第に記載の2件であります。

はじめに、協議題1「令和3年度府中市の教育に関する予算について」です。

令和3年度当初予算につきましては、前回の12月10日開催の第2回総合教育会議におきまして、教育長から、教育委員会における令和3年度施策展開の方向性についてご説明をいただきました。その後、12月、1月の予算編成会議を経まして、現在会期中であります本年第1回市議会定例会の予算特別委員会にてご審議いただき、議決後に成立することになります。教育委員の皆様におかれましては、この総合教育会議をはじめ、日頃よりご意見をいただき、予算編成にご協力をいただきましてありがとうございます。

それでは、令和3年度の教育に関する予算について、資料に基づき、主な内容を説明させていただきます。総合教育会議資料1をご覧ください。

令和3年度の一般会計予算額は、1,097億1千万円で、前年比で53億8千万円の増となっております。令和3年度の市政運営に当たり、3つのテーマを掲げて取り組んでまいります。はじめに、令和3年度は、第6次府中市総合計画後期基本計画の総仕上げを行い、次期総合計画の着実なスタートにつなげるとともに、安全で新しい生活を送れるよう、新型コロナウイルス感染症の発生前と異なる新たな未来を作ることを目指す「新しい未来を拓く」、2つ目は、地域における人と人とのつながりを高め、誰も置き去りにしない安心して暮らせる生活を目指す「信頼の絆を築く」、3つ目は、先人が築き上げたまちの魅力に磨きをかけ、にぎわいと活力を感じるまちづくりを目指す「洗練の魅力を磨く」であります。この3つのテーマのもと、総合計画の目指す都市像である「みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち」の実現に向けて様々な施策を積極的に展開してまいります。

続きまして、資料の右側に移りまして、教育費の主な新規・レベルアップ・投資的事業等についてですが、学校教育関連では、新規事業として、タブレット端末を活用した教育指導を推進するため、クラウド上でドリルワークや取組状況の把握等が可能な学習支援サービスを導入するほか、レベルアップ事業として、このクラウド型学習支援サービスの活用研修を実施するため、合計で4,136万1千円を計上しています。また、投資的事業では、老朽化対策として、第八小学校及び第一中学校の校舎改築に伴う工事、また、第三小学校及び第六小学校の改築に伴う調査・設計費用など合計43億9,029万9千円、また、全中学校における体育館空気調和設備設置工事などが主な事業であります。

文化・スポーツに関連する予算といたしましては、新規事業として、市内にある古民家の保存活用事業、オリンピック・パラリンピックをテーマとした平和啓発事業を実施するための費用を計上するほか、投資的事業として、郷土の森博物館整備事業、美術品の購入、市民陸上競技場の外壁や地域体育館の屋上の改修事業を主な事業として、予算の編成をいたしました。

教育委員の皆様におかれましては、既に1月の教育委員会定例会にて、内容についてご審議いただいていることと思いますが、ここで改めてご報告をさせていただきます。

それでは、来年度の予算の内容等について、ご意見などございましたらお願いいたします。

○日野委員 コロナの状況の中、府中市の税収も大幅に落ち込むことが予想され、予算編成も大変であったらと推測します。その中で、予算に関する要望に対応することも難しいと思いますが、何点かお話いたします。

はじめに、支援員の増員について要望いたします。昨年来、特別支援教育における人員不足、雇用形態、給与等の改善をしていただいたところですが、スムーズに運営できていない様子であり、日によって支援員の人数にバラつきが生じているようです。また、今後は、発達障害や身体に障害を持つ子どもの小学校・中学校への入学も増え、将来的には、医療的ケ

ア児の受入れも始まることから、これに備えて、特別支援教育における人員要望は今後も多いと思い、更なるご配慮をお願いしたいところです。

また、ICT教育については、前倒しで機器の整備等が進んでおり、喜ばしいことではありますが、教職員の皆さんのご苦勞は大きいと思われまゝ。働き方改革を推進するという面でも、ICT機器の導入に伴う補助員の増員など、人的支援をお願いできたらと思います。

○市長 ありがとうございます。はじめに、市税の減などによって、予算編成が厳しかったのではないかとのご発言をいただきまして、確かに、市税の減収は避けることのできない状況ではありますが、これまで基金として蓄えてきた財政調整基金などを活用することによって、財源を確保することができ、結果として、1,097億円という当初予算としては最大規模の予算を編成することができたというところです。そこで、特別支援教育、また、ICT教育における支援員の充実にたいご意見を賜りました。これらの分野は、人員を確保するのが難しい分野でもあります。予算についてはしっかりと充当し、体制を整備することについて、市長部局として取り組んでいくことをこの場で改めてお誓い申し上げたいと思います。

○平原委員 ただいまのICT教育関連につきまして、私も着目した点がありました。この資料には、レベルアップ事業として学校教育ネットワーク事業が掲載されています。今年度、府中市では、GIGAスクール構想推進に伴い、回線の増速や一人一台端末の環境整備が着実に進められました。さらに、本レベルアップ事業では、教員研修の予算措置により、教員のICT活用力の向上や、授業の充実改善につながっていくことが期待されています。このレベルアップ事業について、私は期待を大としております。

○市長 タブレット端末については、既に学校に納められていると思いますが、1月下旬に教育部長と担当主幹と3人で準備をしている工場へ視察に行き、作業の様子を見てまいりました。その際、偶然にして、府中第三中学校に納品予定の端末を整備しているところに立ち会うことができ、非常に楽しみになりました。良きツールを児童・生徒が1台ずつ持つこととなりますので、このことについては、日野委員へもお答えしたようにしっかりと予算措置をしていきたいと考えております。教員の皆さんがレベルアップできるように、ぜひ、教育委員会の中でもご協力をお願いしたいと思います。

○新島委員 ネットワーク支援員について出ていましたが、ハード面・ソフト面において各種準備が進められており、大変喜ばしいことであると思います。一度に入れた機器は、また同じ時期に不具合が生じる可能性が高いと思うので、継続的に必要になる予算であると思いますので、来年度以降も引き続き不便なく使っていけるような予算編成ができるように配慮していただけると有り難いと感じています。また、クラウド型学習支援サービスの導入により、各ご家庭でも使用ができるようになると思いますが、ネットワーク環境が整っていないご家庭へはルーターを貸し出すなどの支援を今年度も行っていただき、大変有り難かったのも、来年度も各ご家庭におけるドリルワーク支援を行えるような配慮をお願いしたいと思います。

また、小・中学校の校舎等改築事業についてですが、第八小学校と第一中学校でいよいよ建築工事が始まるということですが、次に控えている第三小学校・第六小学校においては、新型コロナウイルス感染症が拡大し、環境を整えることは大変重要であると感じた一年でありました。避難所にもなり得る地域に開かれた学校として設計していくこととなりますので、対策を万全にして、地域の方も安心して使用できるような施設になればと思います。私たちも知恵を出しながらですが、そのような施設になることを望んでいます。

支援事業について、来年度から学校事務の支援員（補助員）がいなくなり、大変であるという声を聞きました。様々な状況に応じて変化があることはやむを得ないと思いますが、急なお知らせによって学校現場の方が困らないような配慮も必要だと思います。学校運営を縁の下で支える方々にも、気持ちよく頑張ってもらえるような進め方も必要であると感じました。

○市長 ありがとうございます。一つは、ICT教育の充実の中で、故障時の対応についてご発言いただきました。今は機器も新品ですので、使い慣れることが第一ですが、使用していけば不具合が出てくることもあるでしょうし、年数が経てば新しい機器への更新も考えなければいけないと思います。児童・生徒の皆さんには大切に使用いただきながらも、今後の維持管理については予算を充当していく必要があると思っております。そして同時に、ご家庭におけるICT機器類の活用については、委員がおっしゃるとおり環境に差があると思います。学校で学習したことを家庭でも学習できるようにするため、その環境についても、配慮していく必要があると思いますので、教育委員会と連携して見守っていきたいと思います。

それから、いよいよ第八小学校と第一中学校において、改築工事が始まります。また、その次の学校も選定して設計を始めるところですが、ご指摘のように、地域に開かれた学校ということが、非常にこれからの学校の大事な部分であり、特に、大きな地震やその他自然災害が発生した時には、避難所として使用するということが大前提としてあります。この点については、八小と一中でも意識して設計をした部分であり、今後も同様に考えていきたいと思っております。

そして、支援員のことですが、慣れた方にいつまでも仕事をお願いできればよいですが、様々な事情で人の配置も変わることでありますので、業務が滞らないように注視しながら、現場の意見や要望について教育委員会からも聞き取りを行っていきたく思います。

○増淵委員 はじめに、厳しい財政下において、これだけの教育予算が確保できていることは、大変有り難いことであると感じております。予算編成を通して教育に対する市の姿勢が象徴的に表れており、大変感謝しています。新規事業としてクラウド型学習支援サービスを導入いただけること、これは、学校と家庭を結び付け、子どもたちの学習を充実させますし、この後の協議題でも触れたいと思いますが、ICTの導入は学習スタイルが大きく変わります。学校の先生たちの勘と経験ではなく、データに基づく学習指導ができるようになってく

と思っていますので、そのような意味でも、私は大変期待をしたいと思っていますし、教育委員会委員としてもできる限りのことをしていきたいと思っています。

それから、文化・スポーツ分野で、文化財の活用に関する予算が確保されています。教育は、まさに未来を拓く営みですが、もう一方で、過去に蓄積されたものを大切にしてい、不易とも言える役割を持っていますので、このような分野にも確実な予算措置がされていることは有り難いことであると思いました。

○市長 ありがとうございます。ICTを活用した教育の充実については、全ての委員さんからお話がありまして、改めまして、学ぶ方も学び方が変わるし、教える方も教え方が変わり、また、教えながら学ぶということになり、さらには、お話にあったように、データとして蓄積されることにもなりますので、更に教育を発展させるより良いチャンスではないかと改めて思ったところですので、しっかりと支援をしていきたいと思えます。それから、府中市内にある文化財の新たな取組についても触れていただきました。江戸中期から後期にかけて建てられ、そのままの状態でも保存され、数年前までは暮らしていらっしやった古民家です。市内には、遺跡をはじめとして多くの文化財がありますが、府中市のまちの魅力を象徴する古民家であると認識しています。これから東京都や文化庁と様々な連携などが出てきますが、しっかりと保存して、子どもたちをはじめとする未来に向けた新たな宝物として大切にしていきたいと思っております。

○教育長 学校教育及び社会教育の各分野について、令和3年度も教育委員会の施策の方向性を踏まえた予算編成をしていただいておりますことに、改めて感謝申しあげたいと思えます。とりわけ、学校施設に関する予算においては、先ほどもお話がありましたが、第八小学校及び第一中学校の改築工事、第三小学校及び第六小学校の設計業務を進めるとともに、前年度に引き続きまして、体育館等に空調設備を設置することは、教育活動における児童・生徒の健康保持や良好な学習環境の実現に大きく寄与できるものと考えております。学校の改築につきましては、次の協議題でも少しお時間をいただき、お話させていただきたいと思っております。今後も、それぞれの施策を計画的かつ着実に推進させ、引き続き府中市の教育の充実を図ってまいります。

私からは、小中学校の清掃消毒作業委託事業につきまして、少しお話ししたいと思います。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、小中学校では、感染及びその拡大リスクを可能な限り低減するために、「新しい生活様式」を踏まえまして、放課後、教職員を中心に校舎の清掃消毒作業を行っておりますが、このことについて、教職員の負担増が大きな課題となっております。この1年間、これまで各学校で集団感染が生じなかったのは、強い使命感のもと、徹底した感染防止対策をしていただいた先生方のおかげであり、感謝しております。

この課題を解消するために、教育委員会では、国の本年度第3次補正予算に計上された学校教育活動継続支援事業にかかる補助金を活用しまして、毎日1時間から2時間程度、清掃消毒作業の外部委託が可能となるよう予算化しております。この事業を実施することにより、先生方が子どもたちと向き合い、誇りとやりがいを持って教育活動に費やす時間を確保

することができ、心身ともに充実して効果的な教育活動を行うことができるものと考えております。

今後も、市長部局と連携いたしまして、それぞれの施策を計画的かつ着実に推進させ、本市の教育の質の維持・向上につなげてまいりたいと考えております。

○市長 新型コロナウイルスの感染防止対策に当たっては、校長先生をはじめとする現場の教職員の皆さんの様々な取組のおかげでありまして、教育長のお話の中にもありましたが、学校内での感染が一例もないことは、先生方のご努力によるところが大きいものと感じております。教育長がお話しされたように、消毒作業は、学習環境を整えるための取組の一つでありますので、先生方にお願いをしたいところもありますが、本来的には、子どもと向き合い、各種教材の研究を行いながら、よりレベルの高い授業の展開をすることが、やはり教職員の皆さんにお願いしたいところですので、外部委託についても、取組内容や取組方法、適切な委託規模などを常に見ながら行っていただきまして、我々も学校を応援する気持ちで見守っていければと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

どうもありがとうございました。それでは、協議題1「令和3年度府中市の教育に関する予算」につきましては、以上とさせていただきます。

◎協議題2 子どもたちの現状と取り巻く環境について

○市長 続きまして、協議題2「子どもたちの現状と取り巻く環境について」です。

この1年は、とにかく新型コロナウイルスに翻弄され、感染拡大の影響などによって子どもたちを取り巻く環境が大きく変化したことは事実であります。また、学校現場では、新しい学習指導要領への対応や協議題1でもご意見いただきましたGIGAスクール構想の実現など、教育課程・教育環境にも大きな変化が生じていることと思います。府中市の子どもたちの現状や今後の課題について、教育委員の皆さんが日頃感じていらっしゃることをそれぞれご発言いただき、意見交換の場とさせていただきたいと思います。少し漠然とした協議題ではありますが、大事な時期だと思いますので、是非ご発言をお願いしたいと思います。

○日野委員 要望をさせていただきたい事項と、我々教育委員会が動かなければいけないことにつきまして、それぞれ発言させていただきます。新型コロナウイルス感染症により、子どもたちの行事が大幅に減少しました。替わりになる行事を学校も一生懸命考えて取り組んでいるようですが、中学校三年生は卒業するため、代替え行事を行うことができません。小学校六年生については、中学校一年生になってからでも何か企画をしてあげたいと思っています。思い出がないまま一年間を過ごさせてしまったことに対して、市としても予算措置にてバックアップをしていただきたいというのが要望です。もう一つは、新しい学習指導要領により、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて進めていきますが、私の理解としては、自ら勉強して、分からないことを先生に聞くというスタイルが確立していくことが目標と考えます。日本では、学校の先生が教科書を用いて画一的な授業を行い、子どもたちは、それを受け入れて咀嚼して記憶するという形が主流となっていました。それが、今後は子ど

もたちが自ら勉強して、自ら考え、ディベートして、分からない部分を指導してもらおうという方向性に変わってくるのではないかと思います。その中で、ICT教育はとても役立つと思っています。自分の家で学習することが可能になりますので、不登校の子や、肢体不自由児など、学校に来ることが困難な子にとっても大変役に立つツールになるとと思います。今がチャンスであると思いますので、十分に活用してもらいたいです。私の患者でも不登校の子どもたちが多くいますが、ICT教育が始まってから口癖のように話すのは、「無理をして学校へ行かなくても大丈夫。学校へ行けないことで自分を責めるよりも、自分でパソコンなどを用いて主体的に勉強することの方が将来に向けては大切なことである」ということです。したがって、我々もこの点を意識しながら進めていかなければいけないと思っています。

○市長 ありがとうございます。学校行事、とりわけ宿泊を伴う行事については、ほとんど実現することができなかった一年でありました。中学校三年生については、卒業後の進路が分かれてしまうので、代替行事の実施が難しいところですが、小学校六年生で日光へ行けなかった児童たちについては、中学校一年生の一学期の間に、宿泊体験の行事を行う予定で予算化しておりますので、引き続きバックアップをしていきたいと思っています。

また、子どもたちが主体的に学ぶということは、教育委員会、市長部局の垣根なく、子どもたちを育てる上での使命でもあると思っています。ICTを活用して主体的に学ぶことにより、学ぶ範囲を広げ、内容も深くなると思いますし、家庭で学習する環境がより整うことになりますので、不登校の児童生徒も含めて、全ての子どもたちが学ぶ姿勢づくりについて、共に作り上げていかなければいけないと思っていますので、今後ともぜひご指導をいただきたいと思っています。

○平原委員 新型コロナウイルスの感染が続き、今後も予断を許さない状況にあり、私も教育委員として学校の行事に参加したり、授業を参観したりする機会がめっきり減り、子どもたちの現状が捉えにくくなっていると感じています。そのような中、先日、昼休みの時間帯に、ある小学校の近くを通りかかると、校庭からとても元気な子どもたちの声が聞こえてきました。足を止めて校庭の様子を見ると、ボール遊びや縄跳び、遊具遊びなど、はつらつと活動する姿を見ることができ、少しほっとしました。また同時に、子どもたちの内面はどうかと考えた時に、外から見た限りでは分からないのですが、あるアンケート調査の結果から子どもたちの内面が見られるのではないかと思いますので、紹介をさせていただきます。

子どもたちの心身や学びにどのような変化がもたらされているのか、国立成育医療研究センターが「コロナ×こどもアンケート」第4回調査を昨年11月から12月にかけて実施し、その報告書が2月10日にインターネット上で公開されました。この調査では、日本全国の小学校1年生から高校3年生までの児童生徒が924人、それから、0歳から高校3年生までの保護者が3,705人回答していました。この調査結果から、子どもへのアンケートでは、小学生から高校生までが「集中できない」「すぐにイライラする」など、共通した変化を捉えることができます。また、子どもたちの悩みとして、勉強のこと、友達関係、心身の

健康などについての割合が高い傾向がありました。中でも勉強に関しては、小学校の低学年では20～30%、高学年では40%ぐらい、中学生では76%、高校生では65%と、多数の児童生徒が勉強への悩みや不安を抱えていることが分かりました。また、自由記述欄には、「学校に行くときに緊張して具合が悪くなる」「コロナのせいで、休み時間まで勉強しなければならない」「宿題が多すぎて、好きなことをする時間がない」「受験があって不安」「なにか、疲れてしまう」などと、心身の不調や勉強への不安・不満の声もありました。

この調査報告は、府中市の子どもたちの実態を示しているものではありません。しかし、府中市の児童生徒が抱える不安や悩みを理解したり、解消したりする上では、参考になるのではないかと考えています。コロナ発症による学校教育への大きな影響が出てから1年が過ぎました。ここで新年度を迎えるに当たり、各学校の子どもたちの心身や学びについての変化を、学校そして教育委員会が省察していくことが重要だと考えているところです。

○市長 ありがとうございます。昨年の今頃は学校が臨時休校で、年度末に授業がほとんどできない状況で、令和2年度に入っても4月・5月は登校ができず、それだけでも子どもたちは相当なストレスを抱えていたはずですが、学校が再開しても感染防止の観点から行事が中止、あれはダメ、これもダメ、楽しみも奪われ、自由がないと感じている子どもが必ず府中市内にもいるのだろうと、平原委員から報告をいただいて改めて思いました。我々も閉塞感や先が見えない、未来が見えないということを感じています。毎日、感染者数や緊急事態宣言に関する報道が盛りだくさんで、大人でもそうですが、子どもはもっとストレスを抱えているのだろうと思っておかなければならない、つまり、新年度を迎えるに当たって、各学校で改めて子どもたちの心の中をしっかりと見つめていくことが大事なのではないかと思いました。引き続きよろしく願いいたします。

○新島委員 私からは、中学校の部活動の維持・存続についてお話しさせていただきます。今、現場では大きな変革の時を迎えている状況が見て取れ、土日の部活動を学校の先生ではなく、地域の指導員で賄おうという大きな指針が出ているということを知りました。先生方のお気持ちだけでここまで進んできた部活動だと思いますが、平原委員から紹介いただいたアンケートの結果にも「すぐにイライラする」「集中できない」などとありましたが、中学生にとっては部活動を通じて得られるリフレッシュや学びは、とても大切なことだと思います。これから全ての学校で全ての部活動を存続することは難しい状況にあると思いますので、横のつながりを大事にしながら、集約していかなければいけないと思っています。府中市は、体育施設が整っている市であり、大人の方でも常日頃スポーツに携わっている方がたくさんいらっしゃいますので、そういった地域の人材に力を貸していただきながら、中体連の動向とも足並みをそろえて進めていかなければいけないと、私も地域の者として、感じます。先生方とのつながり、また、地域の人とのつながりが、子どもたちにとってよい学びの場になると思いますので、部活動に関してはよく検討していかなければいけないと思っています。

それから、特別支援教室が今年度中学校全校に設置され、通っているお子さんが多くいらっしゃる状況を聞いています。新たな取組として、配属されている先生方も工夫や改善を繰り返しながら進めてきた一年であったのではないかと思いますので、我々も特別支援教室の状況について、注力していかなければいけないと思っています。

○市長 ありがとうございます。スポーツであれ、文化活動であれ、部活動は中学生にとって非常に大事な自分を育てる学びの場であると思いますし、また、それを期待するご家庭も多いと思います。とは言うものの、先生方の働き方の改革も待ったなしの状況であることから、部活動の在り方については、多方面からのご意見を尊重しながら、子どもたちが参加できる部活動については存続させていかなければいけないと思います。ぜひ、学校と地域が連携をして、子どもたちの願いが叶うような協働の在り方について、更に深化できればいいと、今お話を伺って思ったところです。

また、特別支援教室については、先生方のご協力をいただいて、積極的に展開することができていると思っていますが、常に注意深く見ていかないとならないと思いますので、ぜひ、市長部局の方にもご意見をお願いしたいと思います。

○増淵委員 現在の喫緊の課題は新型コロナウイルス感染症でありますので、これについて今年度の総合教育会議でも1回取り上げていただきましたが、もう一方で、これからの学校教育をどのようにしたらよいかということについても、意見交換できればという思いがありましたので、この「子どもたちの現状と取り巻く環境について」というテーマは、とても有り難いと思います。府中の教育の現状と今後の課題について、私なりに理解した上で、お話させていただければと思います。

府中の学校は、公立学校の教育として大変信頼されているのではないかと思います。具体的なデータとしては、公立の小学校から中学校への進学率が全都では79.5%であるのに対して、府中は約88%です。公立の小学校から公立の中学校へ進む子が圧倒的多数であり、信頼の証であると思いました。また、毎年度文部科学省が実施している問題行動調査の結果を見た印象としては、府中市の子どもたちはとても落ち着いているという印象でした。例えば、暴力行為などは全国や東京都と比較してかなり少ないということが分かりました。そして、注目したのは、子どもたちが家庭でよく相談をしているという状況であり、特に小学生ではその傾向が顕著であります。そのような意味で、教育の基盤はともしっかりしているのではないかと思います。それから、これらを支える社会教育環境として、体育館、芸術劇場、美術館、図書館、文化センターなどがほかの自治体と比べるとかなり整っていますので、このことも府中として誇るべきことだろうと思います。そして、学校の特色ある教育活動として、セカンドスクールや合唱、5日間の職場体験などの取組が挙げられます。特に職場体験は全都的にもかなり有名であると思っていますので、このような活動を単発にせず、様々なところで学校の教育が生きるといいなと思っています。

これを踏まえて、今後の充実に向けた課題ですが、協議題1の資料の「新しい未来を拓く」や「誰も置き去りにしない」という言葉にも通じることですが、一つは、学力の問題です。

今年度は、いわゆる学力調査ができていませんので、どのような結果であるのか分かりませんが、昨年度の結果を見ると、最低限の習得目標値に達していない子どもも一定程度いますので、その子たちをどうするのか考えなければいけません。同時に、とてもよくできている習熟度の高い子どもたちをもっと伸ばすためにはどうしたらよいか、これも考えなければいけません。チームティーチングや少人数・習熟度別指導などは取り組んでいます。ICTを活用して個別最適化された学びがかなり進むのではないかと思います。そして、先ほども発言しましたが、教員の勘と経験ではなく、データを通して確認をし、授業改善等に生かしていくといったサイクルを作っていく必要があるのではないかと思います。

それから、2点目としては健全育成の課題ですが、例えば不登校の問題、これは非常に大きな問題ですが、昨年度10月に文部科学省が「学校の意義は大切にしつつも、学校復帰だけを目的とはしない」という認識を示しましたが、不登校の未然防止、早期対応、長期化への対応、そして、教育機会の確保という不登校施策の全体像を整理した上で、今後検討をしている不登校特例校の設置や適応指導教室の役割を位置付けていくことが、必要だと思っています。

そして、もう一つはいじめ防止対策についてです。いじめ防止対策推進法が制定されて7年半になりますが、いじめ問題の解決を他人任せにしない、学校任せにもしない、最終的には府中の場合は市長さんが出ていくような仕組みが定められていますが、重大事態にしないような取組が機能的に実行できているかを不断に検証していくことが必要であると思っています。

それから、3点目は体力の問題ですが、府中の子どもたちの体力は、東京都平均と同等か、一部上回る傾向にあるかと思っています。今般のコロナでなかなか体を動かすことができなくなってしまったことも含めて、子どもたちの体力向上、健康管理の計画的な取組が必要かと思っています。

そのほか、小学校では35人学級へ順次移行する際の教員の質の向上や、幼児教育と義務教育の接続の問題、ほかにも府中市独自の課題など様々考えられますので、具体的なデータに基づきながらこれからの府中の教育を見据えた計画的な取組が必要であると考えています。

○市長 ありがとうございました。中長期的な視野でご意見をいただきまして、仰っていたように、これからの学校教育、あるいは家庭での教育をはじめとする教育全般について、新たな方向性を見出して、一つひとつ階段を登っていくための変化の時期を迎えているとの認識を持っていましたが、この新型コロナウイルスの感染拡大によって、更に変化を進めていかなければいけないと思います。学力を伸ばしていくこと、体力をつけて心身ともに健康な体を作っていくことは本当に大事なことです。やはり、学校に行くことができない子どもたちをどのように育てていくのか、私としても強く意識してきまして、特例校をいずれ設置しようと、2月には文教委員会に属する議員への報告を行っておりまして、中長期的な事業展開を行うこととしております。不登校、そしていじめについてもそうだと思いますが、やはり、未然に、早期に対応すること、そして長期化した場合はどうするのか、全体的

な枠組みの中でどのように取り組んでいくかが大切であり、置き去りになる子がいてはいけません。したがって、これこそ教育委員会と市長部局が連携をして全体を把握するとともに、それぞれの子どもに合った環境を整え、指導していかねばならないと強く思ったところです。

○教育長 私からは、協議題1の資料にもありました令和3年度に42億以上の予算で、これから建て替えを予定している第八小学校と第一中学校の施設について、従来にはない校舎建築の狙いを子どもたちの教育環境という視点に立って、改めてここで具体的にお話をしたいと思います。期待はいくつもあり、先ほどもありました災害時の避難所としての機能や部活動での地域支援なども念頭に置きながら計画を練っているわけですが、この2校をプロトタイプ（基本の型）として位置付け、改善・修正を行いながら、基本的な考えはその後に改築が予定されている第三小学校と第六小学校、また、その後の学校に継承していきます。

はじめに各教室です。従来の広さよりも車イスの使用も見据え、面積を大きく取りました。そして、従来あった教室後方の棚を教室の外に出して、ロッカーを設け、教室の壁面はホワイトボードを設置し、学級内のグループごと、少人数での討論や発表が可能となります。先ほど増淵委員からもお話がありましたが、従来、知識やその暗記に重きを置いてきた従来のSBL（サブジェクト ベイスト ラーニング）という教育に加えて、PBL（プロブレムあるいはプロジェクト ベイスト ラーニング）という少人数によるディベートやディスカッションなど、アウトプットにも対応可能な機能に適合した機能を作ろうと考えています。小学校での35人学級に向けては、このことを踏まえて、次に改築となる第三小学校及び第六小学校に反映をさせていきたいと思っています。

それから次は校長室です。名前を「学校経営ルーム」としました。その狙いですが、今までよりもスペースを広く取り、経営会議、地域とのコミュニティ協議会、PTAなど、来客応接はもとより、学校の最高責任者の執務室にふさわしいものを確保しようと考えました。そしてこの場所が、学校と地域が双方向で活性化を目指す府中版コミュニティ・スクールになるだろうと期待しています。

次に、職員室ですが、職員室や事務室を一体化した「校務センター」と名付け、教職員、すなわち教職と事務職、支援員などの連携と意思疎通、交流などが機能的に行われるように一体化し、児童生徒の情報、関係機関との連携を迅速かつ効率よく行うことで、円滑な職務遂行を期待しています。いわば「チーム学校」の理念を追求する構想であります。

この公務センターの意義は、今後予定されている教育改革の小学校への教科担人制の導入につながります。東京都では、来年度は10人ほどと少ない人数ですが、理科と体育の専科が配置されます。高学年では、精神的にも肉体的にも子どもたちの成長が2年早まってきている状況にありますので、子どもたち個々の興味関心の多様化、先生方の授業改善や専門性あるいは働き方の面からも、本市ではこれまでも小学校高学年での部分的専科を個別に進めてきましたが、中学校と同様に、これまで以上に子どもたちの授業や生活の様子を学級担任と共有して指導するという点でも意味があることだと思っています。先生方は教育委員会の

ネットワークであるTコンパスでの情報共有と併せて、重要な情報や事項、方針の定には対面で行うということが大切だろうと思います。加えまして、特別支援学級・通級指導学級の職員室も兼ねることができれば、交流学习や協働学習など学級を超えた交流、共生社会への理念の具現化を図るものになるのだろうと思っています。学習内容によって、あるいは児童生徒それぞれの学習ニーズに応じて、個別指導計画のもと、通級学級と支援学級の垣根を更に低くすることにより、通級指導など通常に在籍する要支援の児童生徒へのアドバイスも相互に期待しています。これからの社会が目指す共生社会の実現という時代の流れを踏まえています。さらには、特別支援教育に限らず、生活指導上の問題を抱える児童生徒、不登校児童生徒など、個別支援の充実が図られることを期待しています。

そして、次は学校図書館とパソコン教室を統合した「メディアセンター」です。GIGAスクール構想の急速な進展のもとで、パソコン教室の見直しが必要でした。新たな学習形態、少人数指導、不応傾向の児童生徒の自学自習、学級での発表会や課題解決学習PBL、学年を超えた学び合いなど、新学習指導要領の趣旨、あるいはそれを超えた学校教育を見据えて、時代に合わせた変化を取り込むことになると思います。また、登校はできるが学級に入れないという子どもたちもいます。法律の面からも柔軟な対応が求められており、このような子どもたちの学校での居場所（自学自習の場）としても「メディアセンター」は活用できると思います。

不登校対応としましては、学校への復帰を目指している適応指導教室「ケヤキ教室」、学校への復帰を目標としない「不登校特例校・分教室」という重層的な不登校対応に具体的に一步を踏み出します。子どもたちが学校という教育制度に合わせることを当然とされてきた従来の考えだけでなく、個々の子どもたちの個別最適な学習ニーズに合わせた指導という視点の転換が求められていると感じています。

最後に、「学校には三つの教師がある」という言葉を知りました。第一の教師はもちろん学校の先生や大人たち、第二は子どもたち同士、それに続く学校の機能そのものが教師であるという考えです。これまでは、先生の指導にとって優位な学校施設・設備を中心に考えてきましたが、これからは第二の教師たる子どもたち同士の学びに有効な教室配置、施設・設備、省エネ、ICT環境などに加えて、空調、色彩などがトータルとして学びの場にふさわしい要件を整えていく必要があります。そして、こうした取組により、共生社会を目指すことで、第二の教師たる子どもたちの切磋琢磨に加えて、相互理解、相互感化という学校教育に求められる子どもたちの発達資産を更に豊かにすることができると考えています。

新たな学校施設については、これまでも子どもたちの意見を大切にしてきましたが、これからは、校長先生、教職員、保護者のご意見を可能な限り反映させまして、第三の教師たる学校施設を充実させていきたいと思っています。

○市長 ありがとうございます。新たな学校施設について、教育長からご意見をいただきまして、それに対して私が重ねて何かを発言するつもりもないのですが、私の考えとしては、学校は、子どもたちも含めてまちの宝物であり、そして、府中の学校は私ども府中市民の誇

りであるという思い、さらには、まちづくりの拠点になるという考え方も持っておりまして、昭和30年代後半から40年代にかけて多くの学校が建てられたわけであり、老朽化が著しい状況にあります。そして、老朽化によって建て替えを行う前に、平成10年代中頃から平成25年度にかけて耐震補強工事を順次行い、構造についての耐震度を高めました。その後、非構造部材についての耐震化を行ったわけですが、その頃から、できるだけ早く学校改築に着手したいとの思いを持っておりまして、4年ほど前から議会とも相談し、両者が新たな学校づくりに向けて歩み寄り、歩みを早めるなかで、2つの学校で新たに工事着手というところであります。

考え方ですが、教育長からもお話があったように、機器類を有しているというだけでなく、それぞれのスペースをどのように使い、どのように展開されていくのか、人と人との関わりがどのように行われていくのかなど、様々な場面を想定することが非常に重要でありますし、また、先行して改築する学校に倣うだけでなく、新たな考えを取り入れながらより良い学校づくりを進めていきたいと思っております。もちろん、人口減による児童生徒の減も考えられますので、学校の配置や適正規模等を考慮しながらになります。子どもたちや地域の皆さんにとって愛される環境が整った学校施設の更新については、しっかりと対応していきたいと思っております。ほかの自治体では分かりませんが、取り組みたくても取り組めない自治体もあると思っておりますが、府中市がこれだけ力を入れているということは、市民の皆さんにもご理解いただいているものと思っておりますので、ぜひ力を入れて進めていきたいと思っております。

ありがとうございました。協議題2「子どもたちの現状と取り巻く環境について」は、以上とさせていただきます。

◎その他

○市長 それでは、次第の「2 その他」といたしまして、本日の協議題のほかにお気づきの点等、何かございましたらお願いいたします。

○日野委員 新型コロナウイルスの変異株の出現等もある中で、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、子どもたちのホストタウンでのボランティア活動や競技観戦への対応などはどのようにするのでしょうか。府中市としての方針を教えてください。少し話は反れますが、医師会へも大会開催に向けたPCR検査等の協力要請も来ていますが、ワクチン接種への対応や市の各種検診業務と重複しますので、大変厳しい状況にあります。

○市長 本日の朝刊によると、オリンピック・パラリンピックは、海外からのお客様を入れずに、日本人の観客だけを人数制限したうえで開催したいとの報道がありました。これについては、政府や東京都から本市へ連絡が来ていることではありませんので、曖昧な部分もありますが、市としましては、オリンピック・パラリンピックが行われるものとして準備を進めており、それぞれの聖火リレーについても実施する方向で、明日発行する広報ふちゅうでも改めてコースを掲載しております。したがって、ホストタウンとしてのオーストラリア・オーストラリアの皆さんとの交流も、できる限り行いたいと考えていますから、子どもたち

がこれに関わることができるように、感染防止対策を十分に講じた上で、実施したいと思っており、準備を進めています。ただ、もちろん今後の状況は分かりませんので、国や東京都の通達によって我々も変えなければいけない時には、迅速に対応していかなければいけないと思います。

コロナワクチンについては、日野委員の方がお詳しいと思いますが、府中市でも20万人以上の方が接種対象であり、実際に接種する方の人数は分かりませんが、これまでになかったような大きな事業となりますので、現在、4月中旬以降の本格接種に向けて準備を進めているところであります。学校現場におきましても、コロナに対する対応については、引き続き気を配っていただき、年度末をしっかりと終え、新しい年度を迎えていただきますように、今後とも皆様方のご指導をお願いいたします。

○市長 それでは、以上で本日の協議事項は全て終了とさせていただきます。最後に事務局から連絡がありましたらお願いいたします。

○事務局 事務局より今後の総合教育会議の予定につきまして、ご案内をさせていただきます。令和2年度につきましては、本日の会議をもちまして終了となります。次回の開催につきましては、次年度を予定しておりますが、時期が定まっておられませんので、日程の詳細につきましては、後日改めてご連絡をいたします。

○市長 本日の開催につきましては、大変ご多忙のところお時間をいただきまして、また、熱心にご協議をいただきまして、ありがとうございます。以上をもちまして、令和2年度第3回府中市総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございます。

以 上